



人影の少なくなった南京町

神戸のアーバンデザイン
△同業者町シリーズ
③

95

水谷顕介+チーム・UR

●昔の南京町、そこは石畳みで始終水が打たれていて、薄暗く、足をしばりつけてぶら下げるが台車で運ばれたりして、間口のせまい木ノ戸を押して階段をとんとんと上った小さな部屋で陶器のスプーンでたっぷりしたお粥をすすつた覚えがあります。

●最近の南京街、そこへはいろいろな安い材料を仕入れにいきます。腐乳、支那のお味噌の黒豆、ブロイラーではなく土の上を駆けずり廻って大きくなつたという昔ながらの鶏の冷凍一匹、まだ切り刻んでいない大きいくらげ、焼豚などです。その時々、珍しいカンヅメを見つけては買ひ込みます。

●中国の材料は安価で実質があることが何といつてもいいことです。それにこの安価さを支えるお店の経営の仕方、お店の建物に余分な建設費をかけない、夫婦親子兄弟の家族経

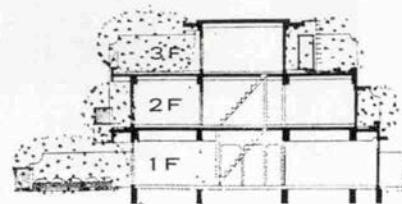
営があります。容れ物だけがどんどん立派になってしまい店主や売子さんがどんどん派手になっていしまってその償却のために不確かな商品の大量販売、物価高を招いている我が国日本人の最近のお商売と対比して、注目すべき堅実さです。

●今の南京町にはこれに裏づけされた食べるところがないのが残念です。せめて5、6軒は欲しい、豚巻屋さんでなくて……。というのが皆んなの希望でしょう。びかびかした建物や、オツにすました内装でなくていい。せめて通りとしての雰囲気がもう少しもりたてられないかという要望がその次にあります。まず、看板やお店のサイン、例えば「粥」という赤い大きな旗とか……からか、元町通りにあわせて路床づくりからか、大きな中国風の門——ゲートからかな？（水谷顕介）

「シェーネ甲南」
水谷頼介+チーム・UR
神戸のモダーンリビング
『タウンハウス』③
95



▲シェーネ甲南平面図
緑いっぱい 立面図▶



南側から見たシェーネ甲南（写真左）
東面、玄関（写真右）

●南北軸ですから東面と西面とに開口部がある。そして、1階にも、2階、3階にお庭としての空間が確保されているのがこのタウンハウスの特徴です。ただし、すべてに「土」がないことにも気になりました。1階は表の道路から玄関に向ってレンガタイルのアプローチと駐車スペース。裏には敷地の境界と建物の間に狭いすき間、ここはサービスヤードとはいい難い巾です。2階は両面にバルコニー、玄関の上がひさし代りになって半円状にふくらんでいるなど、公営住宅のバルコニーなどよりはすこしゆとりが感じられます。3階が前後の両面屋上庭園、ここはそれぞれ巾が4m、奥行が4m前後あるのでかなりひろびろとしています。

●11軒並んでいるお家のなかほどの1軒のお

家が「土」がないにもかかわらず、1階にも、そして2階、3階にも丹精に植樹をしてあるお家がありました。すべてのお家がこれだけの努力をすれば屋根の上から緑やお花がこんもりさがってきて、ということになるでしょうし、あと3~5年後が楽しみです。

●一方、1階の駐車スペースにつづいて玄関の脇に洋間がある具合がこのすまいと町との交流をなんとなく感じさせて、タウンハウス的だといえそうです。国道に緑樹帯ができ上がってこんもりとした道に、あと3~5年ぐらい経った頃、この1階のまわりの姿にはお店か仕事場機能が加えられてより町屋的、まさにタウンハウス的になるでしょう。その時の緑と賑いの合奏が予想できそうです。

（水谷 頼介）

☆神戸を福祉の町に<15>

障害児と共に育つ教育を



元気に耐寒かけ足をする子供たち（上高丸小学校で）

最近、インテグレーション、すなわち“統合教育”といふことがさかんに言われるようになってきた。これは心身にハンディを負った子供たちをすべて養護学校や特殊学級に入れて教育をするのではなく、障害の軽い子供たちはできるだけ地域の普通校で、ハンディをもたない子供たちと同じクラスでいっしょに教育をしていくこうという試みである。すでに神戸でも数年ほど前からいくつのかの小・中学校では障害児を普通校に受け入れて教育しているところもある。その中の一つ、垂水区の上高丸小学校を訪ねて、その様子を聞いてみた。

この学校は九年前の四月に開校し、現在生徒数一八五一名だが、その中に小学校一年生の難聴の女の子と、五年生の肢体不自由でかつ難聴の重複障害をもつ男の子一人がみんなといっしょに授業をうけている。学校を訪ねた時はちょうど耐寒かけ足の時間とかで、寒空に全生徒が校庭に出て、グラウンドをかけ回っていた。その中に五年生の菊地義久君(10)がランニングシャツ一枚でみんなといっしょに不自由な足をひきずりながら元気に走っている姿がみえた。まるまると太っていてとても元気そうだ。菊地君を昨年の4月から受けもつている坂井憲司先生は「義久君は病氣ひとつしたことがないほどで、とても元気ですよ。冬でもシャツ一枚で通学してるんですね。それに他の生徒の倍ぐらい食べます」と笑う。

菊地君は本来ならば友生養護学校という、肢体不自由児の学校へ通うはずだったのだが、垂水から東灘まで毎日スクールバスで通うというのは体力的に無理だったり、本人がバスを嫌がったりしたこともあるし、また自宅からスクールバスの乗り場まで連れていくのが困難なこともあって、すぐ近くの上高丸小学校へお母さんが頼みこんで入学させてもらったという。

最初はすぐ近くの団地からお母さんがついて登校していたが、今では一人で通っている。学校では足が不自由だからといって別に特別扱いもしていないので、運動会でも他の子供たちと同じように走らせもするし、義久君

自らもドッジボールなどにも積極的に飛びこんでいく。

「笑顔が明かるいでしょ。授業中でも彼を特に意識することはありません」と先生に言われるほど義久君はすっかりみんなの中とけこんでしまっている。

「義久君を受け持つて私自身も大変よかったです。しかし、義久君を育てていくのは担任の力ではなく周りの友だちの力に他なりません。しかも彼によって友だちも育っていくようですね」と坂井先生はこの一年間を振り返つていう。

たしかに義久君自身も不自由な耳と足で友達と肩を並べて学校で生活をするにはずい分しんどいことやつらいこともあつたであろうが、反面ずい分プラスになつたことがあるにちがいない。また周りの友達も義久君の生活からさまざまことを学んだはずだ。ハンディをもつた子供たちとそうでない子供たちがいっしょに机を並べて生活をすることの素晴しさはまさにこの点にあるだろう。この小学校から歩いて五、六分の上高丸団地の中に義久君の自宅があるので、お邪魔してお母さんにお会いした。自分の子供を養護学校へ行かせなかつたのは、学校が遠距離にあり、通学が大変だからという他に、高校まで養護学校といふ温室に入れるよりも、小さい時から普通児といつしょに生活をさせて人間を強くしておきたいという気持があつた。もちろんずい分家族で相談し、よくよく考えてのことだったが、今になつて思えばやはり今の学校へ入れてよかつたという。毎年一学年の間に何人かの父兄から「お宅のお子さんといつしょになれて本当によかつたわ」といわれるそうだが、その言葉がお母さんの心をどれだけ支えてきたことだろう。

さらに校区の普通校へ通つてよかつたと思うことの一につき、近所に義久君の友達ができたことだ。「学校から帰つてもいつしょに遊ぶ友達がある」というのは子供にとってどんなにうれしいことだろう。もし、自分が住んでいる所から遠く離れた養護学校へ行つてしまえば家に帰つても団りには誰も遊び友だちがいなくなり、自

分だけひとりぼっちになつてしまふ。家の団りに生活圈がないというのはどうみても子供の成長にとつてマイナスだ。障害の軽い子供はできる限り地域の学校へ通わせるべきです、というのがお母さんの意見である。帰り際に、お母さんが、昨年の十一月にサンテレビの「おはよう神戸」という番組に義久君の学校生活の様子が放映され、その時の番組がテープに録音してあるのでといつて聴かせてくださった。

神戸には上高丸小学校の他に、白川小学校、成徳小学校、塩屋小学校、垂水小学校その他の小学校や中学校で軽い障害をもつた子供たち（主に脳性マヒ）が普通の子供たちと同じクラスでいっしょに授業を受けている例もいくつかあり、今後はもっと増えるであろうし、また当然そういう方向に教育システムや教育政策を進めていくことが大切だ。上高丸小学校の清瀬時春校長先生も「この機運をもり上げて、これからもどんどんハンディキャップをもつた子供たちも受け入れていきます」と積極的な姿勢をとつてゐる。ただ、心身障害児と一口に言つても障害の種類や程度はさまざまなので、障害によつては養護学校で一貫した教育を行つた方がその子供たちにとってよい場合があるのはもちろんである。が、ハンディがあればどの子供でもすぐに養護学校へといふ杓子定規な考え方やシステムは改める必要がありそうだ。今まで述べたようないわゆる統合教育は、ハンディをもつた子供たちとそうでない子供たち、さらに教育者たる教師や父兄にもさまざまな影響を及ぼしていくだろう。子供たちの相互理解ということを考えてもこの統合教育はできるだけ早い時期から始めた方がいい。すでに保育所や幼稚園の段階から障害児を受け入れている地域もあり、神戸市でも特殊学級の校内交流や情緒障害児、言語障害児などの通級制を二、三年前から始めるようになつた。子供の頃からのこうした交流の大切さをもう一度よく考え、地域の中で障害児と共に育つ教育を始めていきたいもの

動物園飼育日記—105—亀井成

ないしょ話シリーズ <27>

小さなパンダ



「なんや、パンダいうても上野のパンダとえらいちがうなあ」

「でもやっぱりようみたら愛くるしい顔して小さいパンダや」

「ほんまやササ食べてはる」

暮もおしまつた昨年十二月二十七日。体重一一〇キロ、シロとクロのジャイアントパンダに比べ、ずっと小さく体重僅か五キロそこそこ、外観はアライグマやネコにも似て、ふさふさしたキツネよりも太くて長い尾をもつた小さなパンダ、つまりレッサー・パンダが到着した。

英名ネコのようなクマ（CAT-BEAR）とよばれるこのレッサー・パンダは食肉目アライグマ科に属する。にも似て、ふさふさしたキツネよりも太くて長い尾をもつた小さなパンダ、つまりレッサー・パンダが到着した。英名ネコのようなクマ（CAT-BEAR）とよばれるこのレッサー・パンダは食肉目アライグマ科に属する。



ジャイアントパンダに比べるとずっと小さいが、やっぱりササが大好物。

いやジャイアントパンダとともにパンダ科として独立させべきだとする学者もあるが、門歯と犬歯は肉食獸に似ながら、平たい臼歯は先端まで平らで纖維質の植物をすりつぶすのに適しているそのレッサー・パンダの食性は、やはり菜食性が至って強く、生肉や魚は与えても鼻で嗅ぐだけ、見むきもしてくれないことがわかった。

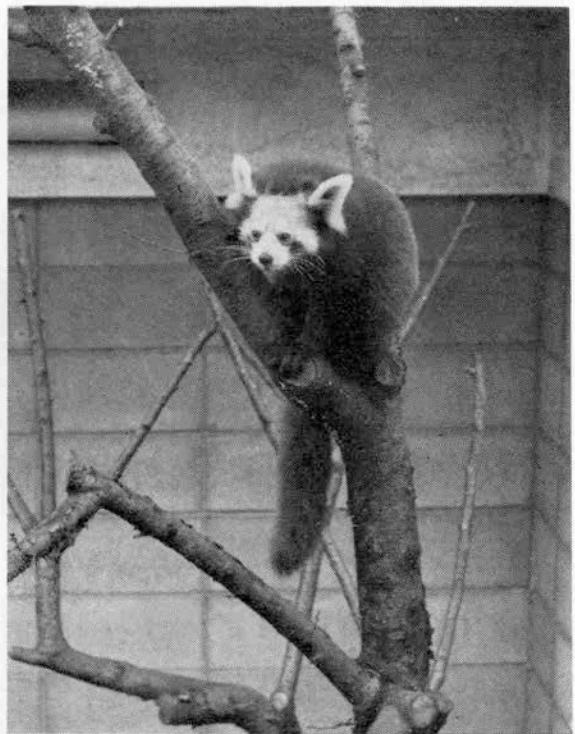
■ 食性

バナナ、煮サツマイモ、煮ニンジン、ミカン、リンゴ、牛乳、オートミール、パン、卵、サトウキビ、そして緑のこゆい新しい竹やササの葉をおどろくほどよく食べる事もわかつたが、肉食動物によく見られる食べもので争うような猛々しさもなく、同じエサに顔を寄せあう姿には、夫婦で暮らすという野生がしのばれてならない。それに餌の前後水やミルクを飲むとき「ははーんクマに似ている」アライグマやタヌキ、キツネ、イス、ネコみな長い舌でペロペロにと水を巻きあげるふうにして水を飲むのだが、レッサー・パンダはちがつている。クマやサル、それに我々と同じで口を少しとがらせ「チュー」と吸つて水を飲む。つまり吸い飲みで、やっぱりアライグマともちがつた食性をもつてていることがお分りになるはずである。

■ 木のぼりの真意

早朝、部屋の中でエサを食べたあと屋外に駆けてるパンダは、いちもくさん、少々寒からうがきまつて一番高い木の上によじのぼつては朝の陽ざしをまともにうけながら、またひとときのあいだ眠りはじめる。

ネパール、中国の雲南省、四川省、それにビルマ北部標高一〇〇〇メートル以上もある山地や森林に野生する彼等は半夜行性。日中は自然の洞穴や岩穴にひそみながら、朝夕出てきては地上で木の葉や果実を食べたあと、また巣穴に隠れるか、高い木の上によじのぼつては昼寝をするといふことにのんびり派。大陸的な習性をもつ



早朝、エサを食べたあと、木のいちばん高い所へ登ってひとと眠り。

リーン一色。刈つてみると、まつすぐのびた腰高のササだったが、これは「ヤダケ」つまり矢にする竹だそうである。それに白いふちどりのある大きなササ、これこそクマザサだと思えば、なんのことない。

「それあんたミヤコザサといいます」とは竹博士こと室井綽先生（姫路学院女子短大教授）の弁。

——それにクマザサというのは栽培して売っているもので、六甲山にはありませんね。

ヤダケに似ているひととしから多くの葉がでているのは「メダケ」ということ。

——それに亀井さんらが刈つてこられるのは「ネザサ」「ヤダケ」「ミヤコザサ」「メダケ」と竹の名がついていてもみなササの仲間ですよ。わたし思うんですが、ササやタケの葉を食べる動物はその種属が衰退していく末期が想像されるんですよ。つまり、ササや竹を食べると特にビタミンKの抗菌作用のほか、漢方においても古くから強精剤としてクマザサ類を利用しているように、動物が弱ったときにも自らササの葉を食べる事がよくあるのも、やはりこうした薬理作用を求めているのだと思われますね。

さてパンダがきてからは果物や野菜類は買えても、ササだけは六甲の山々に刈り出かけることになった。ちょっととした山のふもとにあって、よくササブネを浮べたおなじみの「ネザサ」も近頃は少なくなつた。これは昭和四十年に開花ののちほとんど枯れたからだとう。標高六〇〇メートルぐらい、しかも斜面のすそ野にかけてよく生えているクマザサに似て大きな葉全体がグ

■ササとウンコ

さてパンダがきてからは果物や野菜類は買えても、ササだけは六甲の山々に刈り出かけることになった。ちょっととした山のふもとにあって、よくササブネを浮べたおなじみの「ネザサ」も近頃は少なくなつた。これは昭和四十年に開花ののちほとんど枯れたからだとう。標高六〇〇メートルぐらい、しかも斜面のすそ野にかけてよく生えているクマザサに似て大きな葉全体がグ

となつており、最後に濃い緑色の便をしかもきまつた場所に出しているので、調べてみたらこれがササのウンコだつた。だが不思議なことにパンダのウンコはあまりくさくない。それはササに含まれるビタミンKなどによる抗菌作用の働きによるものなのであろうか。とにかく、パンダは臭わない、まことにきれいな愛くるしい動物なのである。

（王子動物園学芸員／写真も）

●もうさんの「本」《作品集》が出来ました。笑点・似顔絵のけっ作集録

友人、知人の手でこれまでの業績を「たかはしもう笑品集」といった本にまとめ、出版しようと云う計画がもちあがりました。何卒、別記要領をご覧の上、ふるって会にご参加お願いいたします。

☆お問い合わせは

月刊神戸っ子編集室 電 331-2246

鬼才のマンガ家たかはしもう
顔見せ興行ごあんない

とき 3月13日(木)→18日(火) 6日間

ところ 大丸神戸店 4F =文化サロン

■初日(13日) 午前9:30・会場にてテープカット
■神戸新聞社 ■大丸 ■発記人 ■各代表

展示内容

- (笑点)=原画(神戸新聞連載)
- (似顔絵百人)■政経界・文化人
=神戸っ子オールスターキャスト
- 記念出版、作品集(たかはしもう笑品集)

誕生日・出版・個展
記念大パーティ

とき 3月13日(木) PM6:30
ところ 生田神社会館
4F大ホール
会費 2,500円



『たかはしもう笑品集』

内 容

- ①新作カラーまんが=9P
- ②笑点18年間自選集=36P
- ③似顔絵神戸っ子100人=50P
- ④ニュースまんが家の一日=5P
全 120頁 定価 2,500円
発行予定日=3月上旬



神戸新聞(笑点)でおなじみの たかはしもう笑品展

催しもの

- 実演(笑点)を描く
3月13日(木)・14日(金)・17日(月)・18日(火)・4日間
PM 3:00より
<たかはしもう><有名タレント>による笑点の実演
- マンガショー
13日(木) PM 2:00・出演=関西マンガ家クラブ
- 腹話術
14日(金) PM 2:00・出演=竹村まこと
- こどもマンガデー
15日(土)→16日(日) PM 1:00
●詳細は神戸新聞紙上、大丸の広告欄をごらん下さい。(お問合せは大丸へ)
- マジックデー
17日(月) PM 2:00; 出演=福岡康年
- 田辺聖子を囲む笑談会
18日(火) PM 2:00・出演=作家田辺聖子



大天災…たかはしもう…の昇天祭 (天才) (笑点)

出演…J.C集団、マンガ家集団、
作家集団、画家集団、無所属派集団、行政集団、マスコミ集団、神道集団、仏教集団、マカンブッサール集団、MaMaクラブ集団、音楽家集団、舞踊家集団、半どんの会集団、傘の会集団

をめぐる 神戸、子達

土井 芳子さん
〈神戸婦人団体協議会長〉

「先達っては大変ご馳走になります」。『イエイエなんのなんの』開けっ広げで気持ちがいいこの人は描き手の気持を反対にリラックスさせてくれるから楽だった、さすが。

松井 高男さん
〈神戸新聞文化事業局長〉

「今日の笑点はオモロかったなア」。いい時は何時もほめてくれたのが松井さん。「頭の方は鉛筆がちびへんからええやろ」と言った。「松井さんに髪がフサフサしたらモテ過ぎて困る」と私



光田

顕司さん 〈神戸新聞社社長〉

足かけ20年も勤めていて、この時始めて話をした。親しみやすい人だったんだなア……と思った。もっと早く会えていたらなア……と思った。優しい目をしてはる。

滝川

光子さん 〈白翠宝商店社長〉

優雅な奥さん、ラベンダーのトータルファッションが印象的。且那さん（滝川歯科）がうらやましい……なんて言っていたら歯を抜かれるよ。





石井 一さん 〈衆議院議員〉

「自民党よ何処へ行く」いいタイトルですなア党内でどうもなかったんですか」「ワッハッハ～」と笑うだけ「これは各党に当てはまりますなア」「そうですねアッハッハッハ～」



有沢 武さん 〈兵庫県眼医会副会長〉

『始めて……』の挨拶から三十分間。昔からの知り合いのようになる。楽しい眼医者さん。『眼のことなら何んでも言って下さい』



エスター・ふく・ニュートンさん

（トアロード・エスター・ニュートン・オーナー）

85才には驚いた。「若さを保つ秘訣はなんですか」「心の持ち方じゃないでしょうか」とおっしゃる。なるほど国際結婚の草分けだったニュートンさん。広い広い心の持主かもしれない。



をめぐる 神戸子達

古林 喜楽さん

〈神戸大学名誉教授・広島商大学長〉

一緒に阿波踊りに行った。近くは“帰って来た歌謡曲”にも一緒にテレビ出演。『あの時先生の一人舞台私はマンガだけで歌わしてくれませんでした』『そら大久保怜に言うたらよかったですア……もうすんだか、飲みにいこ』元気な人だ。



坂井

時忠さん
〈兵庫県知事〉

「ああそうですかそれはいいことですね」ひっきりなしの訪問者の話を聞く知事。横でゴシゴシ消ゴムで丁寧なさせてもうっている私もいる。知事さんは忙しい。私も時間が気になってハラハラしてきた。



落合 重信さん
〈史学家〉

まさに神戸の歴史、この人の昔話しさ味がある。人の話をしても愛情があるから楽しい。優しい神戸の歴史家だなア。



杜山

悠さん
〈作家〉

「今日は服ですか」「そやねん」和服の悠さん、この人が着流して歩いていてもキザにならないから不思議だ。日本の兵庫のふるさとの匂いがするとも言つのかな。





末広 光夫さん 〈音楽プロデューサー〉

やわらかそうな体。さすが予科練くずれ、若い血潮がある。若いミュージシャンを育てるのにやっ気になっている。若い元気な末広さん。



新谷 索紀さん 〈彫刻家・二紀会〉

お父さんに続いて親子二代にわたって私に好意をもってくれる。うれしいじゃないか。「国際的な顔ですか？両親のいいところばかり取ったんだなア」いやお父さんもいい顔している。気を使うなア……。

眉村



卓

（SF作家）

この人は、作品を見なくとも仕事の出来る人だな……と思った。『違うない彼が好きになつた。急速に親しくなつた。『金曜日に飲みましょうか』が合い言葉。土曜日にラジオ関西に出演中。』

柳本



薰さん（デザイナー・小公女経営）
御大、というアダ名。元宝塚とは知らなかつた。なるほど目鼻立ちちは舞台向きである。「描こうに描いといでよーっ」「ハーハハイ！」

● 福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 <カラー8ページ、本文320ページ、定価 1000円>

送料 200円



主な内容

- 神戸からシアトルへ
- クライシス・クリニック
- グッドウイル・インダストリーーズ
- 里親発見活動
- フォースターブランドベアレント
- ファーストアベニュー・サービスセンター
- ボランティア・ビューロー
- 病院におけるボランティア活動
- レニア・スクール
- ポーリーズ・タウン
- 砂漠の中の老人の町
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コベンハーゲンの老人の町
- ベーテル——西ドイツの障害者の町（ドイツ）
- ヘット・ドルフ——未来を拓くオランダのコロニー（オランダ）

各書店で好評発売中！

振替口座
神戸四五九六

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル7F TEL(331)2246

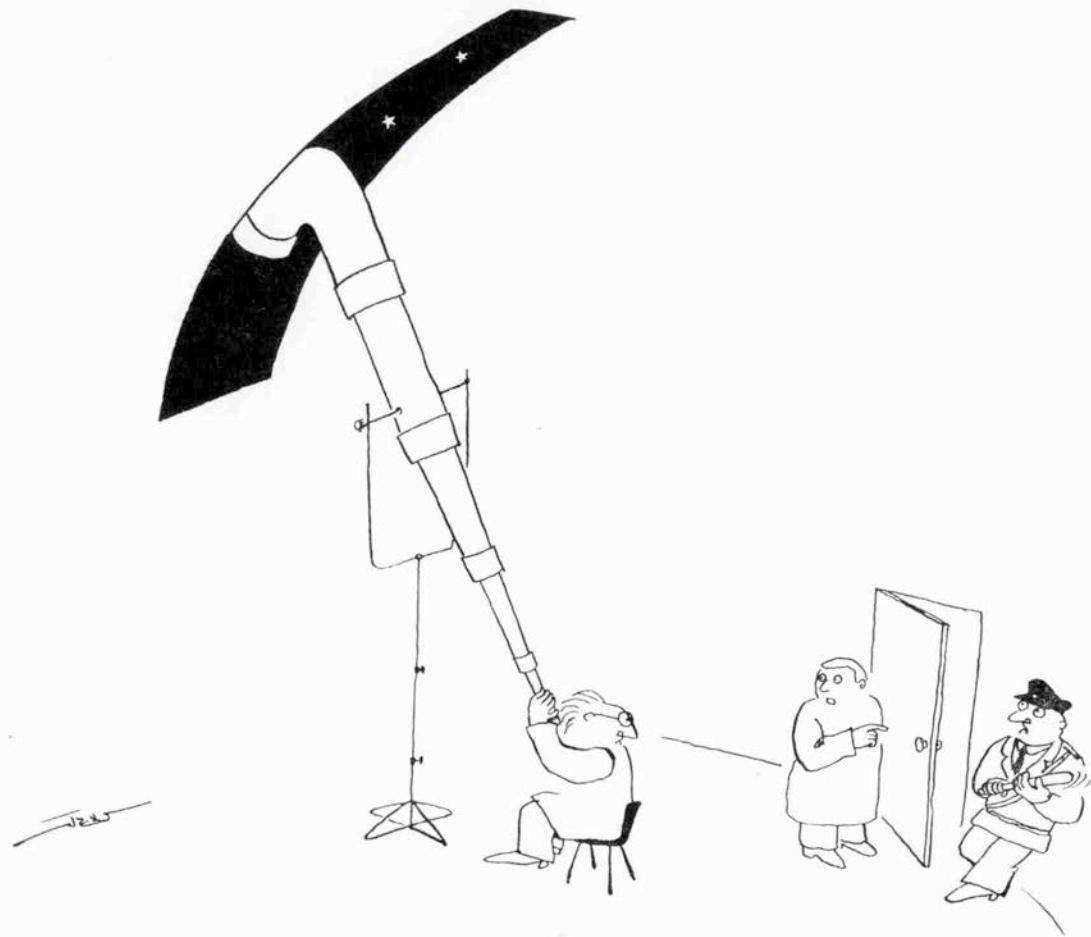
——アーヴィングの研究室⑤ 移動式住居——

岡田 専



——この移動式住居は、どうして頭にツノみたいなものをする必要があるのですか？

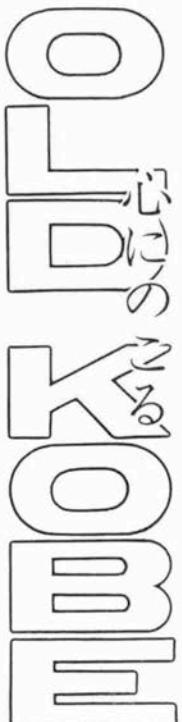
— プロフェッサー P の研究室 ⑥ 星の研究 ————— 岡田 審 —



——教授、近所の風呂屋から苦情が出てるそうです。

古本屋繁昌(下)

6 あおば しげる



★ “東”の思想書と“西”の講談本

三宮、元町付近について多かったのは、旧関学のあつた上筒井、熊内方面と新聞地付近だった。前者には白雲堂本、支店（店主・古家実三氏）や伊藤書店、ロマンス書房、後藤書店その他があつたが、今の雲中小学校前にあつた後藤書店は明治四十三年の創業で神戸の古本屋では最も古いノレンを誇っていた。それが昭和十六年に現在のセンター街の東入り口（生田区三宮町一丁目）に移つたが、古くからあらゆる種類の古本をそろえて各層の客が出入りしていた。大正初期には社会運動家の賀川豊彦氏が旧書店の近くの熊内町に下宿していて、よく店へやって来たそなたが、主著「死線を越えて」を出版する前だつた。

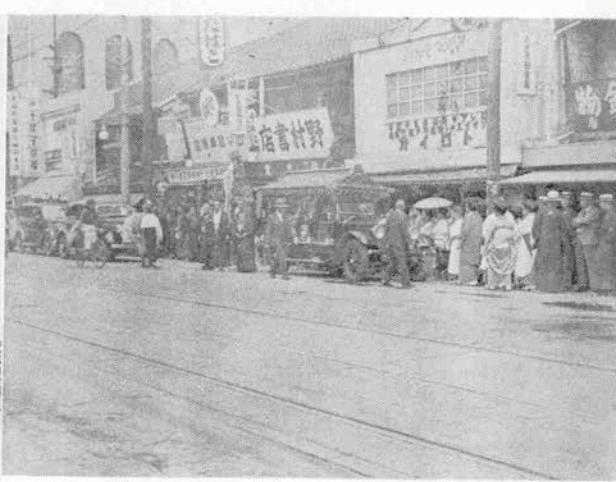
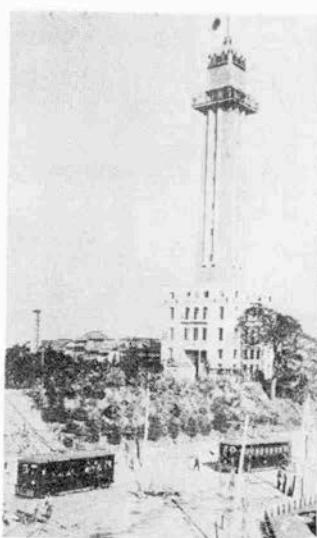
創業者の和平老は五年前に死去した。白雲堂はとりわけ左翼書が多く、店内に入ると冊子風の思想科学の翻訳本がずらりと並んでいたが、マルクスやエンゲルス、カウッキー、ナウカ社などのカナ文字をしるしたものが特に目を引いた。河上肇の「マルクス資本論」の分冊本や「女工哀史」は当時のベストセラーの一つだつたが、当局の検閲に引つかかって○○や××の伏字が本のいたるところにあり、読むのに骨が折れたが、学生たちは半分は好奇心もまじえて一心に解説に苦労したものだ。また、これらの左翼本の専門店には特高警察の調査も行なわれ、シナ大陸での戦争の進展につれてしまいに厳しくなり、発禁本もふえたため売り買いも用心を要するようになつていて。

この付近は昭和初期は古本屋と並んでバーや喫茶店

生や春日野道付近の重工業の労働者、女給などの行き来がめだつていて。なお、白雲堂の主人古家実三氏は姫路出身の某小学校長でなかなかの博識でしかも進歩的なインテリだつた。現在むすこさんが姫路で同名白雲堂を経営している。次ぎに新聞地や多聞通にも多かつたが、まず湊川公園のもと神戸タワーのぐるりには橋本書店、上野書店、山本書店の三店が並んでいて、現湊川温泉のできるまではこの広場へ時々これらの店が夜店を出したもので、香具師仲間ではこれを「ワンドウ」と呼んでいた。聚楽館裏（通称金魚池）北角には松村書店（現須磨区笠松七丁目で経営）、同館東側に米田書店、福原口浜側に野村書店があった。つづいて昭和二年頃から上崎書店（旧名大正堂）が湊川温泉北側に開店したが、場所がよいせいもあってか今日までなかなかの繁昌ぶりのようである。その後兄弟共同運営をやめ、弟の上崎哲夫氏（県古書籍商協組理事長）が経営している。昭和六、七年頃に同タワーのすぐ横にできた上西書店の主人は共産党員だったが、大杉栄ばかりの色白の男前で当然左翼本や雑誌「戦旗」を多く並べていた。

楠公さんのすぐ西側にあつた松浦集古館（故松浦祥之助氏＝後藤書店の和平氏の義兄）は本の扱い数が豊富で鳴らしていた。多聞通八丁目の市電筋には野村書店（野村五三郎氏経営）があり、ここもいろいろな本や雑誌をあきなつていてが、同氏の娘さんで現在垂水に在住の初子さんの話によると、福原の遊廓（赤線地区）の近くだけに当時はお女郎さんがオバサンと連れだつてよく講談雑誌を買ひに来たそうである。また、播州や有馬の方面から古本を売買に来た本屋の若い店員たちが商売

したあとよく福原へ遊びに出かけたこと、近所での宴会での帰りにみやげのつもりで子どもの絵本を買いにきた客が多かったことなどを語っているのも興味深い。その他平野区域には坂本書店、浅見書店、坂田書店、楠町六丁目へ下がる筋には米田書店（のち太閤堂と改称）があつたが今一軒も残っていない。長田地区には桑田書店と桐蔭書店（昭和六年頃、今は）、月見山一丁目には間島書店があり、間島書店（間島一雄氏経営、創業五十年）のみは現在も同じ場所で運営されている。山陽電鉄



▲ 多聞通 8丁目の電車通りにあった野村書店（昭和初期、写真提供 野村初子さん）

◀ 古本屋がぐるりにあった湊川公園の神戸タワー（のじぎく文庫「神戸市電物語」より）

西代駅浜側に哲文館書店、兵庫の大仏堂境内に石井書店（現在柳原書房）、大橋五丁目に六合館、大正筋に合田書店、六間道に長田書店と市西部方面もなかなか多かつた。

さて、戦前（特に大正筋から昭和初期へかけて）の古本の種類を調べてみると、思想書については文芸ものが多く、学生向きの参考書類がよく求められた。文芸ものはむろん年度によって相違はあるが、坂本栄一氏（文紀書房店主）の話によると、古本ファンにいつも特別人気のあつたのは永井荷風の「腕くらべ」（私家本）や木下利玄の歌集「銀」、与謝野晶子の「みだれ髪」などで、「腕くらべ」は昭和初期すでに五十円、「銀」は三十五円の高値だったし、「みだれ髪」は同氏が昭和二十六、七年頃に四千五百円で売ったそうだが、今日もし出たら十五、六万円はするだろうという。戦前の夜店には文学の全集もので一冊五錢や十錢の古本が出た時に何十円もしたのからいかに人気があつたかが知られよう。古本屋が同時に貸本をやっていたものの中では明治以来講談本が、大正五、六年以後は立川文庫がよく借り出された。昭和初期からは各種円本や漱石全集が人気を集めた。

初めて神戸で古本市が開かれたのは大正十四年で土井氏の勉強堂の二階へ数店の主人がみんな本を背に負うて持ってきたものだった。その後元町二丁目の衛生組合の建て物にさらに多くの店を加えて毎月催され、昭和十七年頃まで続いた。当時はセリ市だった。また、昭和十年頃から年末に朝日会館（栄町三電車通）で即売会が開かれ、売上げの何割かを社会事業に寄付したものである。戦災で貴重本が多く焼失したのは惜しまれるが、終戦後は東京の古本屋が神戸まで盛んに買いに来たが、その時売れた本の中にも貴重本・珍本がかなりあつたらしく。前に書いた古本屋のほかに東部方面には、広重書店（加納町三）、宇仁菅書店、南天莊（共に国鉄六甲道駅北）小牧書店（阪神電鉄御影駅南）などがあり、南天莊と小牧書店は今日も営業している。（五十一・一・六記）

Air Mail from New York (19)



竹田 洋太郎
え・たかはし もう
(在ニューヨーク)



二月、ふらりと神戸に現れた。
ニューヨークにいるはずの洋チャンが

「キツチユ」という言葉が日本でも一時流行しましたがアメリカでも、キツチユ好みといふか、奇妙キテレツなものを集めたりする趣味の人が山ほどいます。キツチユとはなんぞや。アメリカの本屋で立ち読みしたところによると「テースト・オブ・バッド・テースト」とありました。つまり「悪趣味を趣味とすること」ですね。その一例。

友人に聞いた話ですが、ニューヨークのセントラルパーク近くの比較的高級アパートに住む老紳士が犬を飼っている。二匹のスコッチテリヤで、一匹はまつ黒、他の一匹はまつ白。それをつれて、朝、公園を散歩しているというのです。これ、もちろん、例のスコッチウイスキー「グラック・アンド・ホワイト」の商標になつてゐるやつ。バーの棚なんかにおいてあるあのマスコットと全く同じように毛も刈り込んであるのだそうです。本当かどうか、作り話みたいだと思って話したら、実際これを見た人がいました。

もう一つの例。

ある画廊で版画展のオープニングパーティが開かれただので、のこのこ出かけていきました。美術の個展などのおープニング・パーティーは普通、夜の九時半くらいから十一時ごろまで開かれます。

近ごろのニューヨークだから、新しい仕立てのタキシードを着たご主人に、ハナエ・モリかなんかのデザイン

のシフォンのイブニングドレスの奥さん——という正装の夫婦もあれば、ツギハギのブルージーンのドレスの女性に、ヨレヨレのビロードの上衣に丸首シャツの男性のカップルといったのもいます。まあ、抽象画の美術展なら日本でも多かれ少なかれ、こういった風景が見られるものです。

ところが、私がふと気がついて見直したお客様が一人ありました。一時代前のエリ幅のせまいタキシード・カラーリは、一九三十年代の再現というタテカラーリ。

これだけなら「グレー・ト・ギャツビー」封切以来、再流行のキザシというスタイルですが、ヒゲモジヤのこのおじさんの足許を見ると、なんとバケット・シューズをはいています。

高校生や若い大学生は米国でも日本同様バケットシューズがハヤリといえばハヤリです。だが中年が、タキシードを着てバケット・シューズとは、と驚いたわけでも痛風持ちだから、フォーマルな靴はにが手なんです。ただし、この解釈ではおもしろくありません。

次は、キツチユでなく、神戸の人とときどきいう「ケツチ」な方。ケツタイな方の例。

マンハッタンの西五十七丁目といえば、カーネギーホールもあり、五番街に近づけばファッショナブルなブティックもあるにぎやかな通りです。もつとも「ニッポンクラブ」があつたり、その向いには、日本の書籍雑誌を売る東京書店というのもあって、日本人の通行人も多い。ある時、ここを歩いていたら、統一教会（昔、原理運動）といつてたの）の青年が、三宮の街角と同じように現れて、花束や南京豆を売りつけていました。

そこへ悠然と現れたのが若い日本人の奥さん。背中に赤ちゃんをおんぶして、ピロードのエリのついたネンネコを着て、手に日本でスーパーなんかへいくとき持つ買物袋をぶらさげ、ごく自然に歩いているのです。エリザベス・テイラーオーの氣に入りといわれるレスト

ラン「ロシアン・ティー・ルーム」からランチを終えて出てきた紳士淑女たち。この日本女性の姿にあつと立ちすくみ、じーっと見つめているのです。

文字通り国際都市のニューヨークだから、どんな国の服装を見ても驚かないのがニューヨーカーですが、ネコにはギョッとなつたようでした。

もう一つ。

ニューヨークは酔っぱらいの多いところ。南のパワリにいくと、路上にのびて寝ている酔っぱらいが多くいて、観光バスのガイドは必ずここで「アル中の末路はこの通り」とお説教をするほど「観光資源」になつています。また、毎週金曜日の夕方は、週給をもらった労働者がさつそく酒を買い込み、クラフト紙の袋に入れて、ときどき立ち飲みしながら町を歩いたりします。地下鉄も線によつては、この時間に酒くさくなる。

ところがある金曜の夕方、四十二丁目のバスターミナルの地下から地下鉄へ行く通路で、真剣な顔をして回転ドアと格闘している男がいる。これ酔っぱらい。

地下鉄の入口は、一度ニューヨークへこられた方はご存知のように、トーケンというコイン切符を入れて、ガチャンと回転棒をまわしてはいるようになつていて、ガチャチャの音が響く。この男、外側から出口はたいてい、ちょうど宝塚遊園地の出口と同じように、一方へだけ回転する鉄のドアです。その回転ドアの外側からは絶対中へはいれないのに、この男、外側から一生懸命ドアをまわしている。なんかのスキがあれば、中へはいようと、ドアをにらんだり、パッと身をひるがえしたりするが、これは無理。しかしあまり真剣なのでここからはいれないといつてやるもの気の毒、というわけで、多勢の人がニヤニヤしながら、見ているだけ。見物の方にも酔っぱらいがいて、ドアとの格闘に声援したりしている。私も数分間見物しましたが、この勝負はつまり面白くないって？ 面白くない人は、酒飲みの気持ちがわからない人。



淀長立見席

38

ビリー・ワイルダア万才

（映画評論家）

淀川長治



このところ私の御ひいきのビリー・ワイルダア監督が
影をひそめていた。

「シャーロック・ホームズの冒險」といういきな映画い
らい五年。どうしたことやら。そう思っていたやさき、

「フロント・ページ」。

オールド・ファンなら『ほんまかいな!』と腰がとび
上る。そういいたいほどこの「フロント・ページ」たる
作品……懷しくも懐しきアメリカの名作。

ビリー・ワイルダアは今年六十八才。私より、三才兄
貴。それで私の好きなスター好きな映画が……みんなバ
チッと合つちまうのだ。

「サンセット大通り」にはグロリア・スワンソンこれ
にアンナ・Q・ニルスンやH・B・ワーナーやキートン
ーと一九二八年プロードウェイの舞台で当てに当てる

までも、いやセシル・B・デミルまでも引っ張り出し
て、その総もとじめにストロハイムを置いた。

「ワン・ツウ・スリー」にはジェームス・キャグニー
だ。

「情婦」ではディートリッヒを面白い役に登場させた。

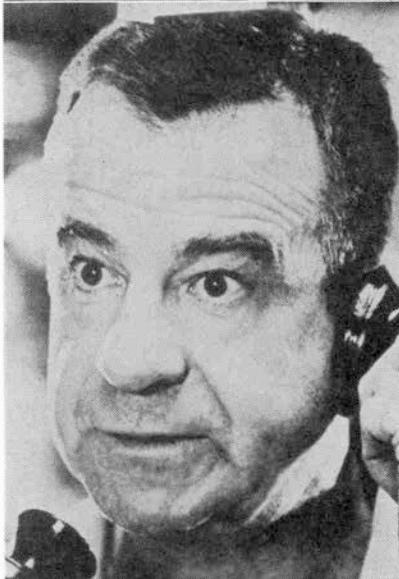
「アパートの鍵貸します」はフレッド・マクマレエ！
というわけでワイルダアのアメリカ映画ファン気質は
筋がね入りだ。

そのワイルダアが「フロント・ページ」と来たのだから
オールド・ファンは腰がとび上った。

これぞ何をかくそうアメリカ切ってのアメリカ劇作家
にして小説家にして映画脚本家にして映画プロデューサ
ーたるベン・ヘクトが、相棒のチャールズ・マックアーサ
ーと一九二八年プロードウェイの舞台で当てに当てる



私の御ひいきビリー・ワイルダア監督、「シャーロック・ホームズの冒險」いら五年。／



人気舞台劇。

かくて早くもこれは一九三一年、ルイズ・マイルスト
オン監督、アドルフ・マンジュウ、パット・オブライエ
ン主演で映画化され、日本題名は『犯罪都市』。昭和
九年ユナイト作品として日本封切。

昭和九年といえどもトーキー・フィルムにも日本
文字幕のスーパーインボーズが画面に焼きつけられた
ものの、この映画の台詞（せりふ）まさにマシン・ガン
そのままの超スピードで、とても一度見たくらいでは読
み切れるものではない。

なにしろシカゴ一九三〇年の新聞記者の集り（たまり
と申す方がいい）その一室を舞台に八名のしたなか記者
を追い抜いて今や今日の今『かかる種取り記者ちゅ
う商売から俺は足を洗つたぞ！ 結婚するんだぞ！』と
叫んだヒルディが……目の前メートルに脱獄犯人をた
つた自分一人で見てしまったその瞬間……またモリモ
リと記者根性がよみがえり、ここに種とり記者のそのな
んたる非情なんたる非人間をお見せしてゆくのが『フロ
ント・ページ』。

それでこのベン・ヘクトとチャーリーズ・マックアーサ
ーの芝居の面白さをさらにもう一度というわけで、今度
は一九四〇年『ヒズ・ガール・フライデイ』という題名
で記者その二人を女と男に変化させ ロザリンド・ラッ
セルとケイリー・グラントでこれを演じ、たしかこの日



「どうしたことやら。そう思っていたやさき。
この『フロント・ページ』」

本題名『風を起す女』だったか『特ダネ女史』であった
か……残念これはそう面白い映画とは申せなかつた。

とにかくこれを今あらためてウイーン生れのドイツ人
ビリー・ワイルダーが再映画化したことが面白い。

一九三〇年のシカゴといえどもトーキーで
そのノスタイルジック・男性・ファッショնは大当り。

それをもってこんだかビリー・ワイルダー、一氣かせ
いにジャック・レモンの、足を洗つたとたんかを切るヒ
ルディ、……これに配し同じく記者のデスク長のウォル
ター、これが海千山千の名優ウォルター・マッソー。

この二人、ある映画……「恋人よ帰れ／わが胸に」（一
九六六）……で共演した。レモンはベッドに寝たつきり
の演技。マッソーはこの男にいろいろと忠告するガミガ
ミのやかまし屋。それでレモンはベッドに寝たつきりで
これで見事アカデミイ賞と野心づいた……のに……この
共演……結果はマッソーにアカデミイ賞の黄金像がとび
こんだ。

というわけでこの二人の共演……これをワイルダー巧
みに使つての『フロント・ページ』。さぞやオールド・フ
アンは『ああ懷しや』のタメイキ連発。若きファンは魚
が水にとびこんだこのレモンとマッソーとワイルダーに
万才の声三唱……とかくも……持ち上げようとの映画
……お久しぶりのアメリカ映画の香り一杯なのである。